

よみがえれ **足尾の緑**

# 育てる会通信

2003. 3. 1 — 第1号

[発行]NPO法人 足尾に緑を育てる会  
代表 神山英昭  
〒321-1523  
栃木県上都賀郡足尾町松原 2-10  
Tel. 0288-93-2180 Fax. 0288-93-2187



## 足尾に緑を「育てる会通信」創刊号！



2002年4月28日 第7回 春の植樹デー

<石井雅義氏 撮影>

# 足尾の山に 100万本の木を植えよう

## 育てる会通信の創刊にあたって

会長 神山英昭



2003年4月、国土交通省渡良瀬川工事事務所管理地「大畑沢緑の砂防ゾーン」での第8回目の植樹デーを迎えようとしています。

今年は、年が明けてからやけに降雪に見舞われ、しょっちゅう雪掻きをしている状況です。1984（昭和59）年の豪雪を思い起こします。当時は例年になく積雪が深く、シカの餌となる草木は雪に覆われ、多くのシカが餓死していきました。私たちはシカの食害から苗木を守るため、大変な思いをしてシカ避けネットを植樹地に張り巡らせています。今年はそんな思いをしなくても済むのかな（期待薄かな……）。

これまで7回の植樹をしてきました。この活動に多くの人々から関心を寄せられ、年々活動の輪が広まりつつあります。応援してくれる団体も増えてきました。主な団体として、

- （財）河川環境管理財団
- （財）イオン環境財団及びジャスコ今市店
- （社）ゴルファーの緑化促進協力会
- 全労災栃木県本部
- （財）サンワみどり基金
- （株）アスメイク
- （財）郵政弘済会

の支援を受けています。この他にもたくさんの団体、個人の方々からも応援を頂いています。心から厚く御礼申し上げます。

最初は、関心のある人が集い、できる範囲のことをしようと、それほど深い思いを持って始

めたわけではありませんでしたが、今では社会的にも高い評価を受けるまでになっています。活動の輪が広まるにつれ、当会の顧問でもある立松和平さんの後押しがあったり、新聞紙上や多くの情報誌で紹介されたりして、広く関心が寄せられています。足尾は日本一の銅山があったところであり、公害の原点ともいわれていること、国家的緑化事業を開始して100年以上経っていることなど、環境問題を考えるときに絶好の場所です。これらの要因が重なり合って多くの人々が私たちの活動に参加し、応援してくれているのでしょう。

そして、私たちの活動を営々と続けていくためには、植樹する作業地の確保が必要です。関係行政機関や土地所有者の支援と協力が不可欠です。さらには、昨年発足した「特定非営利活動法人 足尾に緑を育てる会」の運営の充実拡大が求められていますので、活動が円滑に進められるよう努めていくつもりです。

これまで多くの方々にご支援頂いてきました。そして、これからの活動にも多くの人々の手助けが必要です。どうかこれからも息長く関わって下さるようお願い致します。

当会は、年4回ほどの通信、年1回の会誌を発行し、情報の提供をしていきたいと考えています。続けていけることを念願しつつ、創刊号発刊にあたってのご挨拶といたします。

## 「足尾に緑を育てる会」が NPO 法人になりました。

### 今後も、会員としての参加をお願いします。

育てる会は昨年5月、栃木県から特定非営利活動法人（NPO 法人）に認証されました。といっても、活動の理念に変わりはありません。ただ、組織がすっきりと整備され、今までよりも活動の幅が広がったといえます。今までは、1,000円の年会費をお願いしてきましたが、今年から下記のように4つに分けられました。概要を載せましたので、趣旨をご理解いただき、今後も会員としてご参加ください。会の運営にとって、会費は経済的な柱です。よろしくお願いいたします。

#### 1. 目的

この法人は、煙害で荒廃した足尾の山の緑化活動を通じて、水循環系を中心とした環境問題に取り組むとともに、渡良瀬川源流地域の問題を考え、もって自然環境の健全化ならびに地域社会の伸展に貢献することを目的とする。

#### 2. 主な事業

##### ①足尾ダム周辺の荒廃地緑化事業

—2003年度の活動予定

- ・4月27日（第4日曜日）植樹デー
- ・7月21日（第3月曜日）草刈デー
- ・8月17日（第3日曜日）グリーンフォーラム
- ・11月2日（第1日曜日）観察デー

##### ②植樹活動支援事業

児童・生徒および各種団体の植樹活動を支援していく。

##### ③関係文書の収集事業

足尾銅山と環境問題に関する文献を収集し、関係者の便宜に寄与する。

##### ④調査研究・情報収集および提供事業

緑化や環境問題に関する事柄について調査研究、情報を収集、関係者の便宜に寄与する。

##### ⑤講習会、研修会の開催

環境問題および緑化に関する講習会や研修会を開催する。

#### ⑥会報など出版物の発行

事務局通信、会誌を発行する。

#### ⑦体験植樹支援受託事業

国土交通省関東地方整備局と当会で体験植樹支援事業として委託・受託契約を締結し、官民協働社会の構築に努める。

#### ⑧物品の生産および販売事業

環境および緑化に関する物品を生産し、販売する。

#### 3. 会員および会費

会員は、本会の目的に賛同する個人および団体とし、会費（1年間）は次のとおり。

- ①正会員 10,000円（本会の活動を推進する個人）
- ②活動会員 1,000円（本会の活動に参加する個人）
- ③賛助会員 1,000円（本会の活動を賛助する個人）
- ④賛助団体 10,000円（本会の活動を賛助する団体）

入会希望の方は、郵便振替で年会費をご入金ください。通信欄に、住所・氏名・電話番号を記入いただければ、入会手続きは完了です。

#### 【郵便振込】

- 【口座番号】 00100-6-360739
- 【加入者名】 足尾に緑を育てる会



育てる会は今年で8年目になりますが、昨2002年はさまざまなことがあり、育てる会にとっては大きな節目の年であったような気がします。今後の活動の充実と飛躍を図るためにも、ざっと振り返ってみたいと思います。題して…

# 「育てる会版」ドキュメント2002年

—2002年の活動報告—

## 4月7日 渡良瀬遊水池で竹刈り

竹刈りも4年目となりました。育てる会では苗木の支柱用として利用しますが、旧谷中村の住居跡を散策しやすくする意味もあります。宇都宮白楊高校の生徒諸君をはじめ、約50人が参加。針谷不二男さんら谷中村の遺跡を守る会の人たちも加わり、軽トラに満載の竹が足尾に運ばれていきました。

## 4月27日 緑化活動推進団体として受賞

育てる会の活動が認められて、国土交通大臣から「みどりの愛護功労者」として表彰を受けました。当日は植樹デーの前日でしたが、神山会長が新潟県での長岡大会にでかけました。なお、表彰されたのは、とりもなおさず会員のみなさん一人ひとりの活動です。今後も頑張っていきたいと思います。

## 4月28日 春の植樹デー



これまでで最高の650人が参加。NHKをはじめ、報道関係者も多く、それはもう大騒ぎ。立松和平さんは風邪をおしての参加で、土や肥料を運んだ



り、苗木を植えたりの大活躍。「ペンよりも、スコップが似合う」などと声が掛かっていました。天気にも恵まれ、気持ちのいい汗を流した参加者は、用意したブタ汁に舌づつみを打っていました。

## 7月20日 夏の草刈デー

だんだん苦痛になりつつあるのが、このイベントです。草木のまるでない状態から始まった私たちの活動は、はじめの頃は刈るべき対象の草がありませんでした。それが最近には本当に立派に成長してくれるので、仕事量は飛躍的に増え、とても1日では終わらなくなってしまいました。草刈は大切な作業なので、今年から対策が必要です。なお、この日は東京の池上第二小学校の児童80人が合流、県連合青年団提供のかき氷に歓声があがりました。



8月18日 足尾グリーンフォーラム…5・6ページ参照

## 9月28日 東日本女性交流登山集会 in 栃木

名湯塩原温泉で、栃木県勤労者山岳連盟主管による集会が開かれ、28日の土曜日分科会「山に緑を一足尾の事例から」に神山会長が助言者として参加しました。「感動した!」「植樹に参加したい!」などなどの感想を頂きました。

## 8月・9月 育てる会が世界に紹介される

8月から9月上旬にかけて、南アフリカ共和国のヨハネスブルクで「持続可能な開発に関する世界サミット」(190ヶ国が参加)が開催されました。ジャパンレポート(日本からの報告書)で当会の活動が「国内における様々な活動参考好事例」として紹介されました。

全国で(2002年3月末現在)6,579団体がNPO法人の認可を受けており、うち1,808団体が「環境の保全を図る活動」を活動分野に掲げています。「小さな一歩から:市民団体・住民団体、NPO・NGOの果たす役割」の項目で、18団体のうちの1つとして当会が紹介されています。「小さな町から世界のASHIOへ」というキャッチフレーズが実感されます。

## 10月6日 利根川ふれあいシンポで講演

我孫子市、柏市、取手市などで構成する「利根川ふれあいシンポ」が取手市市民会館で行われ、神山会長がパネル持参で参加し、利根川を愛する会などと意見発表をしてきました。

ダニエル・カール氏の特別講演を聞き、その後、国土交通省の計らいで利根川を監視する監視船に乗り込み、雄大に流れる利根川の船旅を堪能してきました。

## 11月10日 秋の観察デー

この日は、国交省足尾砂防出張所長の鶴巻和芳さんが駆けつけ、大畑沢緑の砂防ゾーンを中心に緑化事業の解説をしてくださいました。さらに昼食後、スーパーキャリア搭乗のサービス付きに一同感激。しかし、足尾の山が緑に戻るには、まだまだ遠い道のりがあることを痛感しました。

## 10月19日・12月8日 ドングリ拾い・ヨシ刈り

渡良瀬遊水池の湿地再生を目指す「わたらせ未

来基金」の活動のひとつの軸に、足尾の植林におけるヨシの活用があります。10月19日には、メンバーがかじか荘周辺のミズナラやコナラのドングリを採取しました。ドングリを自宅で育てる里親も募集しています。また、12月8日には、渡良瀬遊水池でヨシ刈りが行われました。今後、未来基金との共同作業が増えそうです。



## 12月4日・5日 食とみどり水を守る全国集会

鬼怒川温泉「あさやホテル」で開催された表題の集会(主管・連合栃木、全国から1,300人が参加)に神山会長が参加、特別報告として、当会の活動について講演しました。翌日は、136人がバス3台に分乗して大畑沢の植樹地を訪れ、記念植樹をしました。地元の川田勉氏、桐生英夫氏の協力を得て、バスの中での足尾の案内をお願いしました。

## 県内高等学校で講演

6月21日 栃木商業高等学校  
11月21日 大田原高等学校

「足尾に緑を育てる会の取組み」と題して神山会長が講演しました。講演に先立ち、5月9日にNHKの「首都圏いきいきワイド」(エコチャレンジ2002)の番組で放送された植樹活動のビデオを見てもらいました。両校とも広い体育館に全校生徒が集合、その中での雰囲気には圧倒されました。

## 助成金・カンパをありがとうございます。

最後になりましたが、昨年さまざまな形で、いろいろな団体・個人のみなさまからご支援をいただきました。ありがたく感謝するとともに、今後も末永くおつきあいくださるよう心からお願いいたします。



# 第3回 足尾グリーンフォーラム

2002年8月18日(日) 銅親水公園・足尾環境学習センター

## 台風13号の接近する中で、 盛況のうちに幕を閉じる。

夏休み恒例の企画となってきた第3回足尾グリーンフォーラム。大型の台風が接近する中で開催され、約200人が参加されました。

一番早い時間の企画は、松木山腹工の見学。約20人は乗れるスーパーキャリアで尾根のてっぺんまで一直線。松木渓谷の大眺望が展開するはずが、天候がすっきりしなくて残念でした。

今回初参加の足尾焼陶芸教室は、はたして客が来るかと心配していたら、いつのまにやら大盛況。育てる会のスタッフでもある「正三窯」の斉藤正三さんの指導で、個性的な湯のみ茶碗や皿づくりが展開されました。

好評の宝さがし大会には、やはり子供の参加が目立ちました。千両箱や万両箱の景品に、参加者は一喜一憂、笑い声がたえませんでした。

そのほか、会場ではたくさんの催しが開かれました。松木緑化の足跡を説明したパネル展示や、いまや国民的人気の炭焼きも昨年に続いて参加。また、記念植樹も子どもを対象におこなわれ、こちらはカメラやビデオの人気の的になりました。

足利工業大学グループによる紙根こんの製作も人の輪に囲まれました。また、すでに砂漠などで実証ずみのタネ入り粘土団子づくりには、提唱者の福岡正信さんが突然の参加で盛り上がりました。

そして、なんといつでも根強い人気は、地元出店の食べ物コーナーで、焼きそばや焼き鳥、イワナの燻製など、大盛況でした。



毎回グリーンフォーラムでは、さまざまなお協力がなければ盛り上がりません。宝さがし大会の景品を奮発していただいたジャスコ今市店をはじめ、ご協力いただいたみなさんに心から感謝いたします。また、フォーラム開催にあわせ、(財)郵政弘済会からダンプ型の軽トラックが贈呈されました。これで土の移動などはバッチリです。今後も、みなさんのご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。



## 記念講演

### 立松和平

#### 「足尾の森と古事の森」



今回の立松さんのお話は、法隆寺など木造建築の文化遺産を将来にわたって遺すために材料となる太い木を供給する400年間不伐の森をつくらうという、「古事の森」のお話です。

立松さんはここ数年、正月に1週間ほど法隆寺で修行を続けていて、そのおりに木造建築は絶えざる補修の繰り返しで今日まで立派に遺されていることを知りました。しかし今、日本にはおおがかりな補修をするための大径木がないのです。それなら、400年後に行われる大修理にそなえ、ヒノキなど400年間不伐の森をつくらうではないかと考えたわけです。そこで相談したのが、かつて大間々営林署長だった西堀稔さんで、その後は西堀さんの骨折りで「古事の森」の構想が認められ、1週間前に京都の鞍馬山で実際に木が植えられたのです。

足尾の場合は、ギリギリの瀬戸際で緑を取り戻そうということですが、「古事の森」はもっとクオリティの高い緑をめざしているわけです。しかし、根本的なものはつながっています。

最後は定番となった「貧者の一灯」という仏教説話。お釈迦様のお祭りの日に、金持ちが寄進した1万灯の灯明は風が吹くと消えてしまったが、心のこもった貧しいお婆さんさんの1灯は消えなかったという話です。

そして、立松さんは、こう結びました。  
「このように、私たちが、苗木を一本一本、心を込めて植えましょう。それは、ヘリコプターで一挙にタネを播くよりも意義があるのです。なぜなら、それは心の中にも木を植えていることになるからです」

## グリーンシンポジウム

### 松木の里山復活への道

今回もコーディネーターは下野新聞社論説委員長の新川忠孝さん。パネラーは立松さんのほかに、元大間々営林署勤務の村上壮亮さん、わたらせ未来基金代表の飯島博さん、そしてコメンテーターとして育てる会の神山英昭会長が出席しました。ここでは、印象的だった発言を中心にご紹介いたします。



●飯島 霞ヶ浦では水質を良くしよう、自然環境を良くしようと、NPO法人アサザ基金の活動を、また渡良瀬遊水池ではかつての豊かな水辺を再生しようと、わたらせ未来基金の活動をしています。遊水池のヨシで作るヨシズは外国産に押されていますが、湿原のシンボルでもあるヨシ原は多くの生き物の命を支えています。地域の産業としてのヨシズ産業の再生をめざすためにも、そして足尾

の緑化にヨシが活用できないかと実験中です。また、足尾でドングリを採取し、下流の小学校で苗木に育てるという取り組みをしています。上流と下流の連携が大切です。

●村上 足尾の緑化事業には早い時期からかかりました。当時はなにしろ一面が茶色でした。今はずいぶん緑が増えていきます。このようになるまでの苦労というのは大変なものでした。ある程度緑が回復したところは、人の手をかけないで自然に任せる方法が良いと思います。また、苗木を植えた人は、できれば翌年も見に来たほうがいいです。枯れていれば「オレ、ここじゃ嫌だから育たないよ」と木が言っているのです。木の気持ちになって考えることが大切です。

●立松 木を植えて育てていくことも大切ですが、過去のことをきちんと残しておく「公害博物館」のようなものが必要です。鉱毒事件については膨大な資料がありますが、散逸しています。そういう資料を集め、活用してもらおうのです。「わたらせ川協会」が東大自主講座の資料などを保管していますが、まだ整備されていません。こうしたことにも、皆さんの力をお願いしたいと思います。町の活性化にもつながります。

●神山 足尾の山のことを自分の庭のようによく知っている人がいます。そういう人と一緒に活動できればと思います。緑化事業は自然再生の仕事ですが、町づくり活動の一つという性格もあります。私たち足尾の住民だけでなく、町外、県外のひとびと、渡良瀬川流域のひとびとと手を組んで、いろいろなことを考えていきたいと思っています。

なお、世界各地の砂漠を粘土団子を使って緑化作戦を展開している、自然農法で知られる福岡正信さんが会場から発言、

「足尾の地から、世界緑化へむけた狼煙を上げてほしい」と。



## 体験植樹、わたしたちも植えています！



数年前から小学校や各種団体などの体験植樹が増えてきました。

2000年は30団体、2001年は60団体、2002年は69団体です。ちなみに2002年の内訳は、小学校47校、中学校8校、高等学校2校、大学生2団体、社会人3団体、計69団体。そのうち39団体の植樹活動を当会で対応しました。

今年も、たくさんの人たちが体験植樹で足尾を訪れることを願っています。



[2003年、最初のお知らせ]

足尾の山に木を植えよう！

## 春の植樹デー

日時 2003年4月27日(日)※雨天決行  
集合 午前9時30分(大畑沢緑の砂防ゾーン駐車場)  
受付 午前9時より  
作業 午前10時～午後3時  
場所 大畑沢緑の砂防ゾーン

- 参加費は無料ですが、会員としてのご協力いただける方は年会費の納入をお願いします。
- 昼食・軍手・雨具をご用意ください。
- 昼食どき、ブタ汁の用意があります。
- わたらせ渓谷鉄道ご利用の場合は、終点間藤駅からの送迎をいたします。

《前夜交流会にも、ご参加ください！》

※詳しくは、春の植樹デーチラシをご覧ください。

【編集後記】 足尾に緑を育てる会、初の通信。慣れないパソコンと格闘すること数ヶ月、ようやく形になりました。年4回の通信、いろんな情報をお届けしたいと考えております。素敵な通信にするためにも、みなさんの感想・意見等お聞かせください。(無事に発行できることを願いつつ……) 武田悠利

特定非営利活動法人(NPO 法人) **足尾に緑を育てる会**



《足尾事務局》〒321-1523 栃木県上都賀郡足尾町松原 2-10(神山英昭)  
Tel.0288-93-2180 Fax.0288-93-2187

《宇都宮事務局》〒320-0042 栃木県宇都宮市材木町 3-3 随想舎内(石川栄介)  
Tel.028-633-0489 Fax.028-633-0463

《群馬連絡所》〒379-2311 群馬県新田郡笠懸町阿左美 244-3(高桑春雄)  
Tel.0277-30-5201 Fax.0277-30-5202

URL><http://www.takatechnical.co.jp/asio/> E-mail>[green-future-ashio@orion.ocn.ne.jp](mailto:green-future-ashio@orion.ocn.ne.jp)